

# 国際交流キャンプ in Akkeshi

## ■ 事業のねらい

外国人と自然体験や生活体験を共にすることで、異なる文化圏の人々と進んでコミュニケーションを図るとともに異文化に対する理解を深める。



- 実施日 平成23年9月10日（土）～11日（日）1泊2日
- 参加対象 小学3年生～中学生 40名
- 参加実績 参加者：37名  
 小3＝2名、小4＝6名、小5＝12名  
 小6＝10名 中1＝4名、中2＝3名  
 男子＝10名、女子＝27名  
 運営協力者：11名  
 釧路教育局ALT 1名  
 釧路管内市町村教育委員会ALT 4名  
 根室管内市町村ALT 2名、北海道教育大釧路校2名  
 厚岸町教育委員会1名 厚岸町在住天体観測講師1名
- 備考 活動場所：厚岸少年自然の家及びその周辺

## 1 事業実施の背景



経済社会のグローバル化の進展による国際的な相互依存関係がますます緊密化する中で、海外からの観光客など外国人の来道が増加し、外国人に接する機会が拡大している。このため、我が国及び北海道、そして自分の生まれ育った地域への理解を深め、郷土に対する愛着や誇りをもった人を育て、その上で、諸外国の人々とお互いの文化、習慣、価値観等を理解し合い、異なる文化や生活習慣を持つ人々と協調して生きていく態度を培うことが必要となっている。

こうしたことから、本事業は、国際社会において主体的に行動できる資質・能力を育成するため、自国の文化・伝統とともに、諸外国の歴史や文化、伝統等について理解を深め、尊重し、異なる文化や生活習慣を持つ人々と共に協調して生きていく態度を培うとともに、英語等の外国語によるコミュニケーション能力の育成を図ることを目的として実施するものである。

## 2 プログラムデザイン

受付 9月10日（土）12：30

解散 9月11日（日）11：00

9月	午前	午後	夜	
10日（土）		開会式・ALTのお国紹介 仲間づくりゲーム 外国人の先生と世界のアウトアクッキング	スターウォッチング★ たき火を囲んでおしゃべりしよう	就寝
11日（日）	外国人の先生と遊ぼう！ (イングリッシュ コミュニケーションラリー)			

## ■ アクティビティについて



### ■ 意図

- 簡単な英語を使って（ジェスチャーなどを含む）、様々な相手とコミュニケーションを図る楽しさを体験させる。
- ALTの出身国の伝統的行事などの紹介や、母国でよく食べられている料理を調理する体験をとおして、日本と外国との文化違いを知り、多様なものの見方や考え方があることに気付かせる。
- 野外で活動することの楽しさや喜びを知るとともに、食事や宿泊を共にすることで、生活習慣の違いに気付く。

### ■ 留意事項

- 館内掲示を英語表記にしたり、指示や連絡を極力英語で行ったりするなど、英語に囲まれた環境づくりに配慮する。

### 3 活動の様子



### 4 事業評価



### 5 まとめ



#### ■ 活動の様子

初日は、参加者の緊張をほぐし、ALTとの関係づくりを行った。初めのプログラム「ALTのお国紹介」では、母国の生活の様子などの話を聞き、日本と外国との文化や生活の違いについて学んだ。その中には、ニュージーランドの先住民民族マオリ族の伝統舞踊の紹介もあり、力強いダンスの映像に驚いていた。

また、「仲間づくり」の時間には、ALTが事前に準備したゲームや遊びを紹介し、一緒に活動することを通じて参加者の緊張をほぐしていった。

その後、世界のアウトドアクッキングと題して、グループのALTに教わりながら、アメリカ南部のタコスやチョコレートレアチーズケーキ、ミネストローネ作りに挑戦した。夜には、町内在住の清野光男氏を講師に招き、天体望遠鏡を使って「スターウォッチング」を行った後、グループごとに小さなたき火を囲み、1日をふり返った。

2日目の午前中は、施設周辺の愛冠岬や愛冠自然史博物館などのチェックポイントを回り、グループのメンバーで相談しながら課題を解決する「コミュニケーション・ラリー」を行った。参加者は、すべての課題が英語で書かれた「コミュニケーション ラリー パスポート」を片手に、簡単な英単語を使って気持ちを表現していた。

また、午後からは、映像で2日間のキャンプのふりかえり、キャンプ中にできるようになったことや自信をつけたことなど、参加者それぞれが、2日間の成果を確かめた。

#### ■ 参加者の声

- いろいろな英語を覚えたし、いろんな先生と遊べたのでうれしかったです。
- いつもは、緊張して話せないけど、このキャンプに来たらいやでも話さないといけないので、外国の人とも話せるようになった。
- 伝えたいと思えば、言葉が通じなくても伝えられると思いました。

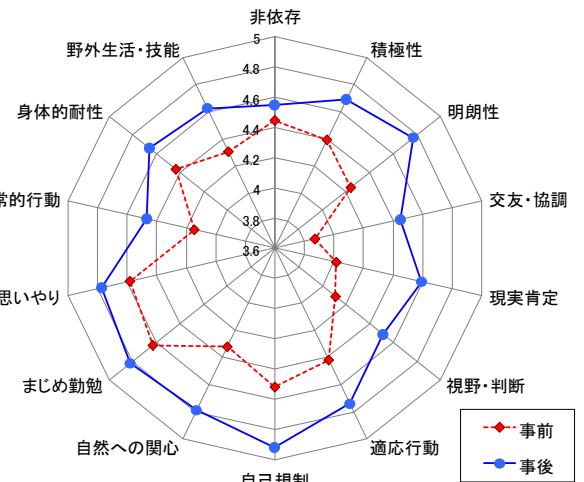
#### ■ 参加者の変容【IKR調査結果】

全ての項目で、事前調査の数値を上回った。数値の伸びが大きい項目は、順に「交友・協調(だれとでも仲良くなれる)」(0.6ポイント増)、「現実肯定(だれとでもあいさつできる)」(0.6ポイント増)、「明朗性(だれにでも話しかけることができる、失敗しても立ち直るのが早い)」(0.5ポイント増)であった。

#### ■ 結果の分析・考察

「交友・協調」の向上については、英語で質問しながら課題解決をくり返す活動とおして、参加者がALTとの関わり方に日々自信を深めていったことと、活動中に、積極的にALTに話しかけるなど、意欲が高まったことによるものと考えられる。

また、成功体験の積み重ねが、小さな失敗を恐れずに挑戦しようとする前向きなエネルギーとなり、「現実肯定」や「明朗性」の数値を上昇させたものと考えられる。



#### ■ 成果

- ALTから、自分の出身地についての話を聞いたり、得意な料理を教わったりする活動とおして、興味を持ちながら異文化について理解を深めることができた。
- ALTと寝食をともにする宿泊体験自体が、挨拶や食事のとり方など、外国の生活習慣を学ぶ機会となっていた。
- 各活動に、ALTと英語で関わらねばならない課題を意図的に設定し、解決を積み重ねさせることで、英語でコミュニケーションをとろうとする意識が高まった。

#### ■ 課題・今後の方向性

- 昨年度の要望などから今回初めて9月に実施したが、夏季休業の直後などの理由からALTの確保が難しかった。今後、日程について検討が必要である。